

令和8年度オースティン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

氏名：Kさん（青少年受入）

今回、子どもたちにとっても貴重な異文化交流の経験になる
と思い、ホストファミリーとして参加しました。海外の高校
生を家族の一員として迎えることで、普段の生活ではなかな
か経験できない文化や価値観に触れ、家族みんなで新しい発
見ができればと思ったことが、受け入れを決めた理由です。
今回我が家に来てくれたのは、17歳の高校生の女の子でし
た。とても落ち着いていて礼儀正しい、素敵な女の子でし
た。

私自身、簡単な英語であれば話せると思っていましたが、詳
しい説明や細かなニュアンスを伝えるとなると難しく、意思
疎通に苦労する場面もありました。そんな時は翻訳アプリなども上手に活用しながら、お
互いに伝え方を工夫してコミュニケーションを取りました。



「大分や日本の名物料理を作りたい！」という本人の希望もあり、滞在中は一緒にたくさんの料理を作りました。家でたこ焼きを作ったり、だんご汁は団子を一から作ったり、カレーやとり天を作ったりと、日本の食文化と一緒に楽しみました。料理をしながら自然と会話も生まれ、家族にとっても楽しい思い出になりました。そして何より嬉しかったのは、子どもたちにとっても楽しい異文化交流になったことです。次男は英語をほとんど話せませんでしたが、いつの間にか一番仲良しになっていました。その姿を見て、「言葉が通じなくても、気持ちは伝わるんだな」と感じました。

今回の経験を通して感じたのは、「お互いに遠慮せず、相談しながら一緒に考えること」が大切だということです。「高校生の女の子だから、きっとこれが好きかな」とこちらで考えていても、実際には違うこともあります。そこで、本人に希望を聞きながら、一緒に予定を決めていくようにしました。相手のことを思って事前準備することも大切ですが、それ以上に、本人の「やってみたい」「行ってみたい」という気持ちを大切に、一緒に考えていくことが、より楽しい交流につながるのだと感じました。

今回のホームステイを通して、家族みんながたくさんの笑顔と学びをもらいました。子どもたちにとっても、海外の同世代の友達と過ごした経験は、これから先も心に残る大切な思い出になると思います。

最後になりましたが、今回のホームステイ事業に関しまして、素敵なお縁と多大なサポートをいただいた大分市職員様、オースティン引率者様に、心より感謝申し上げます。

今回の交流をきっかけに、これからも大分市とオースティン市との結びつきがより一層深まり、たくさんの素敵な交流が続いていくことを願っております。



令和8年度オースティン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

氏名：Mさん（青少年受入）

今回、海外から来た学生を我が家で受け入れるホストファミリーを経験し、家族にとってとても貴重で思い出深い8日間となりました。

最初は、言葉の壁や文化の違いがある中で、うまくコミュニケーションが取れるのか、楽しく過ごしてもらえるのかという不安もありました。しかし、実際に一緒に生活してみると、英語が完璧に話せなくても、表情やジェスチャー、翻訳アプリなどを使いながら気持ちを伝え合うことができ、少しずつ距離が縮まっていくことを感じました。



一緒に食事をしたり、日本の家庭での生活を体験してもらったり、休日には地域の文化や日本ならではの場所を楽しんでもらったりする中で、普段当たり前だと思っていた日本の習慣や暮らしについて、改めて考えるきっかけにもなりました。また、相手の国の文化や考え方をすることで、自分たちの知らなかった価値観に触れることができました。特に、積極的に日本のことを知ろうとする姿や、新しい経験を楽しむ姿勢から、私たち家族もたくさんの刺激を受けました。

子どもたちにとっても、外国の方と実際に生活を共にする経験は大きな学びになったと思います。英語を学ぶことは、単に言葉を覚えるだけではなく、相手を理解し、自分の気持ちを伝えようとする力につながるのだと感じました。

今回の経験を通して、英語を話せることの大切さだけでなく、間違いを恐れずに一歩踏み出すことの大切さを実感し、もっと英語で会話ができれば、さらに深く交流できたのではないかと思う場面もあり、これから英語を学ぶ意欲にもつながりました。



ホストファミリーになる前は、受け入れる側として準備や責任の大きさを感じていましたが、終わってみると、それ以上にたくさんの笑顔や思い出をもらうことができ、この経験の大きさを改めて実感しています。

今回出会えたことに感謝し、この経験をこれからの人生や子どもたちの成長にも生かしていきたいです。国や言葉が違って、お互いを理解しようとする気持ちがあれば心は通じ合えるということを学んだ、かけがえのない経験となりました。

令和8年度オースティン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

氏名：Tさん（青少年受入）

今回、本事業に応募した主な理由は、子供たちに生活に密着した英語に触れさせたかったためです。受入生徒が、“WhatsApp”（日本でいうLINE）というアプリで家族ぐるみのグループを作ってくれた後は、受領したプロフィール以外の情報交換も進み、受入計画を考えたり、ウエルカムボードを作ったりして、対面当日をワクワクして迎えることができました。



生徒は、スペイン語と英語が話せ、日本語は初心者と言っていたため、挨拶＋αを日本語、その他は英語で会話し、生徒はスペイン語、娘は日本語を教えあっていました。受入初日は図書館やショッピングモールをめぐり、犬カフェを気に入ってくれました。食事は日本食中心、平日夜は、英会話教室の生徒との交流、習字、絵葉書、折り紙、カードゲーム、花火をし、朝の空き時間はswitchやyou tubeと一緒に楽しみました。娘は移動時の雑談や私の通訳をメインに引き受け、息子はニュースについての会話や店員の説明の通訳に一役買ってくれ、受入に協力していることを感じました。



休日は、私たちの希望で、中津城、宇佐神宮、杵築、地獄巡り、春日神社の夏祭りへ、生徒の希望で、ショッピングやゲームをしにアミュへ行きました。クレーンゲームでは、万が一あの大きいぬいぐるみが取れたら今晚の荷造りに苦勞する・・・と冷や冷やしながら応援したのもいい思い出です。最終日の朝、生徒のご両親からTV電話越しに「いつでもオースティンに来て、今度は私たちがもてなすから」と何度も感謝の言葉をいただいた時はホストファミリー冥利に尽きる、と光栄に思いました。空港では、生徒が無事に帰途につける安堵感といよいよお別れという寂しさが交錯し、飛行機が見えなくなるまで手を振ることで気を紛らわせたように思います。

受入中は、ホストファミリーとしての役割を果たすことに必死でしたが、改めて振り返ると、アメリカと日本の学校の違いを直接聞いたり、国際葉書を初めて出したりと、私たちも多くの経験を得ることができました。何よりも生徒と過ごした一週間の思い出は私たちの家族にとって一生の宝物になりました。帰国後も、熊本地震の安否確認や近況の連絡をいただき、繋がりを感じています。これからも生徒のご家族や同じくホストファミリーになった方々とのご縁と、この事業がずっと続くことを願っています。



令和8年度オースティン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

氏名：Aさん（引率者受入）



私は以前から英語が好きで、異文化にもとても興味がありました。学生時代に「いつか留学してみたい」と思っていたものの、その夢を叶えることができなかった経験から、いつかはホストファミリーになりたいという思いを持っていました。

また、子供たちにも英語を習わせており、日本だけではなく海外にも目を向け、広い視野を持って成長してほしいと思っていました。そんな中、たまたまInstagramで今回のホストファミリー募集を見つけました。「送り迎えができる今だからこそ、挑戦できるのではないかな。こんな機会はもう二度とないかもしれない！」と思い、応募することを決め、意気込んで面接に臨みました。

実際に会うまではメールで毎日のようにやり取りをしていたため、初めて会った時も、年齢が近いこともあり、初対面とは思えないほど親しみを感しました。まるで以前からの友達に会ったような感覚で、すぐに打ち解けることができました。

彼女は初めて会った時からとても社交的で、私たちの家族に馴染むのに時間はかかりませんでした。彼女は日本語で、私は簡単な英語で会話をしながら交流しました。日本語がとても流暢だったこともあり、子供たちとのコミュニケーションもとてもスムーズでした。



日中は活動があるため、一緒に過ごせるのは夕方から夜にかけての限られた時間でしたが、アメリカの情勢や流行っているもの、日常の些細な出来事まで、話題が尽きることはありませんでした。短い時間でもたくさんのことを話し、お互いの文化や考え方を知ることができたのは、とても貴重な経験でした。歓迎会の後には一緒にショッピングを楽しみ、夜ご飯には彼女がお寿司が好きだということで「水天」へ行きました。大好きだという大トロを美味しく食べて、満足そうにしている姿がとても印象に残っています。



今回は引率者という立場でもあったため、終日ホストファミリーと一緒に過ごす日はありませんでした。それでも、せっかく大分に来てくれているのだから、何か大分らしい思い出を作りたいと思っていました。

日本には何度か訪れたことがある彼女に「大分の何を紹介しよう？」と考えた結果、大分市の憩いの場でもある田ノ浦で、日本文化の一つで

令和8年度オースティン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

もある「お弁当」を作ってピクニックをしました。一緒にお弁当を食べながら話をしたり、サンセットを眺めたりした時間は、今思い返しても特別な思い出です。日本の何気ない日常の一場面を一緒に過ごせたことが、私にとっても嬉しい経験となりました。

彼女がオースティンへ帰った現在も、何気ないことでも連絡を取り合う関係が続いています。「英語の勉強に付き合うよ」と言ってくれて、今度はテレビ電話で話す予定もあります。今回のホストファミリーという経験を通して、海外の文化を知るだけでなく、一人の人と出会い、家族のようなつながりを築くことができました。

最初は「ホストファミリーになってみたい」という夢から始まった今回の挑戦でしたが、終わってみると、それ以上に大切なご縁をいただくことができたと感じています。このような素敵な機会を与えてくださった国際課の皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。家族にとっても、私自身にとっても、かけがえのない貴重な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。